

『一番』 作：ポチ子

『一番』 作：ポチ子

一番になりたかった。

絵を描けば、

歌を歌えば、

誰にも追いつかれることのない、

そんな人になりたかった。

友達にはもっと仲がいい友達がいた、

何でも器用にこなせる子がいた、

自分にはできないと言いつつ訳をした。

手に入れたいものは沢山あるけれど、

手に入れる努力はしなかった。

努力をしなれば、

手に入れることが出来なくて当然だからだ。

もし、最初から手にできるはずがないものと知ったら、

生きていけないとそう思ったから、

だから何もしなかった。

言い訳は心地よかった。

自分を否定しなくていいから。

気が付いたら、何もなかった。

私は何者にもなれない。